

第2章 都市づくりの基本方針

1. 都市づくりの基本的な考え方・計画の基本理念

(1) 都市づくりの基本方針

本市は岡山県西南部の拠点都市として発展し、JR笠岡駅周辺を中心として平地部に市街地が形成されるとともに、周辺の集落地では豊かな自然に囲まれた環境が維持され、身近に自然とふれあえる生活空間が形成されています。

一方、道路・下水道等の都市施設は、市街地では整備が進められているものの、郊外集落地の一部では整備が遅れ、都市環境上の問題を抱えています。

また、多くの都市と同様に、本市においても人口減少が急速に進んでいます。今後も、人口減少は続くことが予想され、これまで維持されてきた都市機能や活力が衰退していくことが懸念されます。

このため、都市活力を維持するためのコンパクトな市街地の形成と、これまで培われた地域資源等を活用し地域の活性化を図るため、多極ネットワーク型の市街地への再構築を目指します。

本計画においては、上記のまちづくりの基本的考え方を踏まえるとともに、令和4年3月に改訂された笠岡市都市計画マスタープランが描く都市の将来像「すむ・はたらく・たのしむまち生活元気都市かさおか」を目指すとともに、多様な交流により、人が「つどう」ことによる賑わいの創出を目指します。

(2) 都市づくりの基本理念

「すむ」・「はたらく」・「たのしむ」, そして「つどう」まち
生活元気都市かさおか

2. 都市づくりの基本目標

都市計画マスタープランとの整合を図りつつ、都市づくりの基本目標を以下のように定めます。

(1) 賑わいと活力のあるまちづくり

① 中心市街地を拠点に、さまざまな地域と連携するまち

- ・ 広域的交流や地域間連携を視野に中心地としてふさわしい都市機能を確保します。
- ・ また、井笠圏域、備後圏域及び高梁川流域の各都市と連携するとともに、100万人圏域の中心に位置するポテンシャルを活かした地域活性化や生活環境整備に取り組みます。

※100万人圏域：笠岡市は、倉敷市、広島県福山市、井笠圏域を含めた人口100万人都市圏

② 来訪者等が集い、快適で多様な交流を楽しめるまち

- ・ 来訪者や通勤・通学者等が集い、快適で多様な交流を楽しめる空間づくりを行います。

(2) 交通ネットワークが充実した利便性の高いまちづくり

① 交通結節点の整備により公共交通機関で移動しやすいまち

- ・ 市の玄関口である笠岡駅と本市の特徴である島しょ部への玄関口である港湾施設（旅客船ターミナル）周辺の整備による連携強化を図ります。
- ・ 路線バスの維持、笠岡駅、笠岡港の整備・充実等により公共交通サービスの確保を図ります。

② 拠点間がスムーズに連携するまち

- ・ 2つの都市拠点・各地域の拠点を結ぶ公共交通網の機能強化や、拠点間を安心・快適に歩ける歩行者軸の確保など、拠点をつなぐ交通ネットワークの強化に取り組みます。

(3) 安心して暮らせる快適で魅力のあるまちづくり

① 居住者の誰もが歩いて暮らせるまち

- ・ 生活に必要な諸機能や就業場所がコンパクトに集合し、それぞれをバリアフリーでつなげることにより、少子・高齢社会に対応した空間づくりを行います。
- ・ 特に、中心市街地では、歩いて暮らせるまちづくりや高質な住宅地形成など安全・安心・快適な住環境の形成を目指します。

② “この地域に住み続けたい”と思えるまち

- ・ 地域の持続的な維持を目指して居住地としての環境整備を行い、地域の人口密度の維持・低下の抑制を行います。
- ・ 安全性に配慮した生活道路の整備や住宅地の安全性の確保等により安全、安心な地域づくりを行います。
- ・ 適切な土地利用の誘導や都市基盤の整備、生活拠点にふさわしい多様な生活を支える住環境の整備等に努めます。

(4) 既存ストックを活用した効率的で持続可能なまちづくり

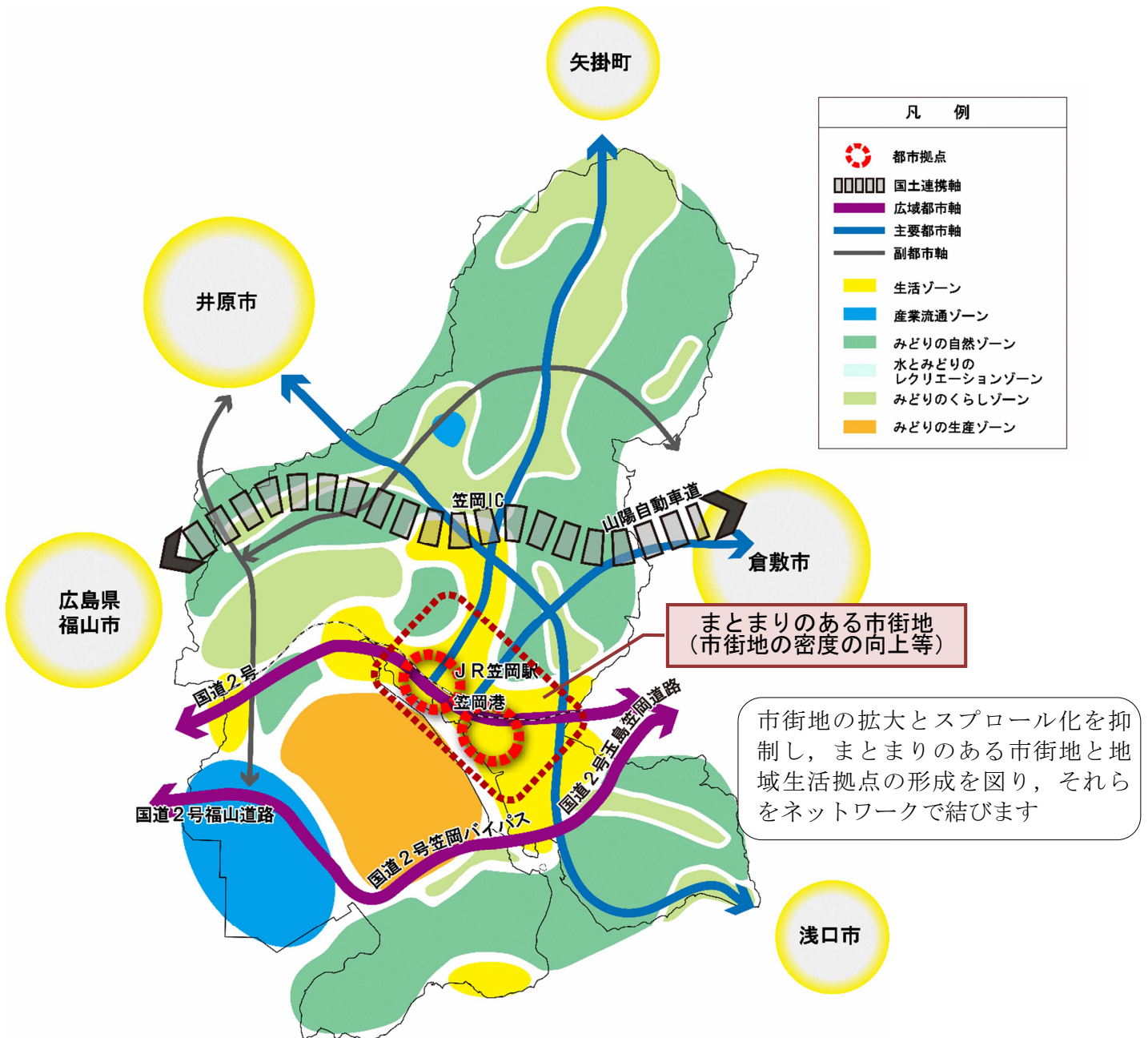
- ・ 厳しい財政状況を踏まえて、既存ストックを活用しつつ、都市施設等の効率的な整備を進めるとともに、官民連携による公共施設の建設、維持管理、運営、長寿命化等の取組を推進します。

3. 将来都市構造

都市づくりの実現に向けた都市の構造は多極ネットワーク型とし、人口減少に対応した持続可能な都市づくりに向けて、中心市街地の密度を高め、中心市街地と地域の拠点が相互に連携する「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指します。

【将来都市構造のイメージ】

拠点	
都市拠点	・広域商業・業務、行政サービスや生活文化機能の拠点となる笠岡市の中心拠点
都市軸	
国土連携軸	・近畿・九州圏などとの交流を促進し、産業・観光・文化等の活力ある都市づくりを支える軸
広域都市軸	・市の産業交流活動を支える東西方向の広域都市軸
主要都市軸	・井笠地域のつながりを強化する南北方向の主要都市軸
副都市軸	・2つの都市軸を補完する物流や人々の活動の副都市軸



4. これまでの取組

都市づくりの基本方針，基本理念，基本目標に基づき，令和2年の計画作成からこれまでに取組を進めている主な状況は次のとおりです。

なお，令和2年の計画作成から経過期間が短く，誘導施策の効果・発現は限定的であるため，令和6年の見直しでは，引き続きこれまでの取組を推進することとし，次回以降の見直しにおいて評価等を検証することとします。

基本目標	主な施策	取組の例	
賑わいと活力のあるまちづくり	①中心市街地を拠点に，さまざまな地域と連携するまち	<input type="checkbox"/> JR 笠岡駅及び周辺の整備	
	②来訪者等が集い，快適で多様な交流を楽しめるまち	<input type="checkbox"/> 笠岡駅南北をつなぐ自由通路及び駅南口の整備の推進	
		<input type="checkbox"/> 駅南口広場の整備と北口広場の再整備の推進	
		<input type="checkbox"/> 空き店舗等活用事業費補助金交付事業	
交通ネットワークが充実した利便性の高いまちづくり	①交通結節点の整備により公共交通機関で移動しやすいまち	<input type="checkbox"/> 用途地域の見直し，地区計画の検討等	
	②拠点間がスムーズに連携するまち	<input type="checkbox"/> 住吉地区の一部において用途地域の変更，地区計画の策定	
安心して暮らせる快適で魅力のあるまちづくり	①居住者の誰もが歩いて暮らせるまち	<input type="checkbox"/> 官民連携，事業者・住民参加によるまちづくり	
	②“この地域に住みたい”と思えるまち	<input type="checkbox"/> 令和3年度に笠岡市観光ビジョンを策定	
		公共交通の確保	<input type="checkbox"/> 令和5年度に福山・笠岡地域公共交通計画を策定
		歩行者動線の整備	<input type="checkbox"/> 令和4年度に笠岡市都市・地域総合交通戦略を策定
		定住促進施策の推進と拡充	<input type="checkbox"/> 住宅リフォーム助成金の拡充
		空き家・空き地活用促進支援	<input type="checkbox"/> 空き地バンク登録促進に係る老朽空き家解体撤去費助成金制度の拡充
用途地域の見直し等	<input type="checkbox"/> 令和2年度に住吉地区の一部において用途地域の変更，地区計画の策定		
生活利便施設等の維持・確保	魅力的な住宅地の形成	<input type="checkbox"/> 令和2年度に笠岡市公園施設長寿化計画を策定	
	防災対策の推進	<input type="checkbox"/> 令和2年度に十一番町児童公園の改修	
		<input type="checkbox"/> 笠岡市高齢者タクシー料金助成券	
既存ストックを活用した効率的で持続可能なまちづくり	公共公益施設の再配置・改修の検討	<input type="checkbox"/> 福山・笠岡地域公共交通計画を策定に着手	
	市が管理する土地等を活用した都市機能増進施設の立地誘導等	<input type="checkbox"/> 令和4年度に笠岡市都市・地域総合交通戦略を策定	
既存ストックを活用した効率的で持続可能なまちづくり	公共公益施設の再配置・改修の検討	<input type="checkbox"/> 立地適正化計画に防災指針を追加	
	市が管理する土地等を活用した都市機能増進施設の立地誘導等	<input type="checkbox"/> 緊急輸送路の無電柱化事業の推進	
既存ストックを活用した効率的で持続可能なまちづくり	公共公益施設の再配置・改修の検討	<input type="checkbox"/> 地域防災計画，国土強靱化地域計画の改訂	
	市が管理する土地等を活用した都市機能増進施設の立地誘導等	<input type="checkbox"/> 市民病院の建替えに向けた検討，認定こども園の建設，小学校の統廃合，分庁第2庁舎の解体	
既存ストックを活用した効率的で持続可能なまちづくり	公共公益施設の再配置・改修の検討	<input type="checkbox"/> 市有地において認定こども園の借地，分庁第2庁舎の跡地利用を検討	
	市が管理する土地等を活用した都市機能増進施設の立地誘導等		